

「U50 得意なことを地域で活かす」 開催レポート

2017年12月6日(水)に開催したなにわ区ラボは、若い担い手を「U50」を対象に開催。当日は37名が参加、ゲストに「スーパー町内会活動」の梅山晃佑さん、藤田ツキトさんをお迎えました。

プログラム1

“スーパー町内会活動” のとりくみから



ゲスト梅山晃佑さん
(A'ワーク創造館事務局次長 / コワーキングスペース「往来」店主)

前半は、梅山晃佑さんに地域で得意なことを活かすきっかけ作りの視点から「スーパー町内会活動」についてお話いただきました。「スーパー町内会」とは、より進化した町内会のこと。地域活動の場として町内会の面白さを知ってもらおうと、「大喜利」という日本版ブレインストーミングを応用。お互いが気負わず楽しみながら意見を出し合える場を作ります。地域の課題もうまくお題に反映させることで、課題解決のヒントを探ります。

スーパー町内会活動とは

- ・スーパー町内会の“スーパー”はスーパーサイヤ人のスーパー。
- ・意見は大喜利形式で楽しく気軽に出し合う。
- ・ノリを重視することでたくさんアイデアを出し、閉塞感を打破。
- ・地域の課題も大喜利のお題にする。
- ・最後は一番やってみたい意見を選び期限を決めて実行の方法を考える。

ここがポイント

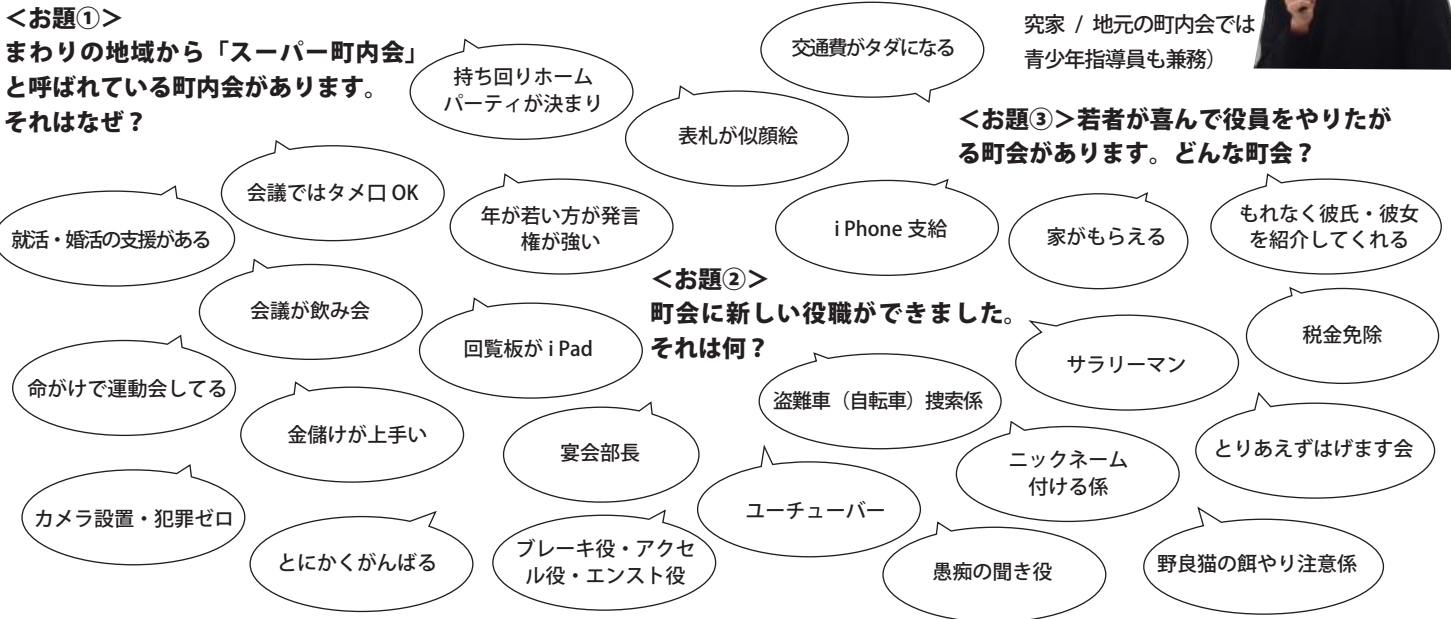
プログラム2

参加者全員で 大喜利に挑戦

後半は、参加者全員で参加型大喜利に挑戦。大きなテーブルを囲んでの大喜利は最初こそ少し緊張気味でしたが、そこはさすがの浪速人。どんどん名珍回答が飛び出し盛り上がりました。“ノリ”で書いたことの中にキラリと光るアイデアも。回答の一例をご紹介します。

<お題①>

まわりの地域から「スーパー町内会」と呼ばれている町内会があります。それはなぜ？



<お題②>

町会に新しい役職ができました。それは何？

<お題③>若者が喜んで役員をやりたいがる町会があります。どんな町会？

ゲスト藤田ツキトさん
(株式会社シカトキノコ代表取締役 / 妄想都市研究家 / 地元の町内会では青少年指導員も兼務)



会場には大喜利垂れ幕が

挙手して答えます

回答は紙に書いて発表

名珍回答の紙が貯まっていきます

後半は地区長も参戦

参加者の声

・自由な意見が出ていて良かった・思いもしない発言がありびっくりした・機会があれば会社内でもやりたい・頭も使うし、面白いし、とても楽しかった・恥ずかしくなくなるまで少し時間がかかった・たくさん意見が出てくるのが大阪だな〜とおもしろかった・アイデア出しの方法としては面白いと思う・別の見方、考え方で問題を考えられる・皆さんの意見を聞いて元気を頂いた。